２０２１年度第１回西日本放送番組審議会

開催年月日　　2021 年 4 月 16 日（金）締め切りによる書面開催

委 員 総 数　　８名

書面参加委員　　８名

高嶋 克洋　委員長

佃　 昌道　委　員

森下 聖史　委　員

藤村 晶彦　委　員

片岡 雅子　委　員

岡田 佳子　委　員

山﨑 達成　委　員

古市 聖一郎 委　員

２０２１年度第１回番組審議会議事次第

【議　　題】

テレビ番組 「優しさの雫　コロナで見つめたハンセン病」

放　送　日　２０２１年3月２８日(日)６：３０～７：００

制　　作　RNC 西日本放送テレビ

【次回開催予定】

開　催　日　２０２１年5月１１日(火)

場　　所　西日本放送　岡山本社　３階会議室

議　　題　テレビ番組

『　RNC news every.第３部　』

放　送　日　２０２１年4月２３日(金)１８：１５～１９：００

制　　作　　RNC 西日本放送テレビ

【議事概要】

今回は、テレビ番組「優しさの雫　コロナで見つめたハンセン病」を視聴していただきました。委員の皆さまからは、中学生の活動については、どの様なきっかけではじまり、どの様に人形劇の内容が作られ、どの様な形で誰に発表したのかの説明があれば、分かりやすかったと思う。

感染拡大し始めた当初は新型コロナを恐れるあまり、非常に残念な反応がいろいろあった。この心理と、かつてハンセン病を恐れた心理とが類似しており、それを大島青松園の入居者の口から説明されることが非常に重みがあった。優しさ、愛を持って患者に向き合ってほしいと。これは、番組冒頭で出てきた脇林さんの言葉に重なる。「今頃あやまっても償えるわけがない。」重い言葉である。

中学生の頃からハンセン病を伝える活動を続けている津田さんと平井さんの映像については、活動に至る背景などが語られず唐突感が否めなかったうえ、学校での授業やペープサートの様子も飛び飛びな印象を受けたのが少し残念であった。

今全世界の人がコロナ禍で辛い生活を余儀なくされている。だからこそ、今まで偏見や差別を受けてきた人たちの気持ちを理解できるのではないか、これからの生き方を考えてみようという呼びかけが、染み入るように伝わってくる良質な番組であった。

短い尺の中だったが、若い方々が取り組まれていることで視聴者にとって見やすい番組になっていたと思う。

番組を見ている中で、取材に応じてくれた入所者の方々が、どうしてこんなにも穏やかに自らの辛い体験を語ることができたのか、という思いに駆られていたが、最後にナレーターが視聴者に語り掛ける場面で納得することができた。「差別を受けたからこその優しさ、希望につながる何かがあるとすれば、優しさの雫ではないでしょうか」本当にこの言葉はそのとおりだと思う。最後に番組全体のねらいを再確認させてくれたという点で、私はいい番組編成であったのではと思う。との意見がありました。

制作者からは、新型コロナをきっかけに人間関係がギスギスするのをするのを目の当たりにして本当に胸が痛みました。ハンセン病の元患者さんたちが「同じような差別を繰り返さないでほしい」と繰り返し語っていたからです。しかし「誰が悪い」とか「差別はいけない」

などということをダイレクトに伝えるのも気が引けました。私たちは新型コロナで身も心も疲れ果てているからです。ハンセン病の元患者さんが教えてくれる「優しさや思いやりを」を少しでも感じ取って頂き、コロナ禍の苦しい気持ちが少しでも楽になればと願いました。

「なぜ隔離される状況が生まれたのか」についても、短く伝えることが難しかったです。しかしその部分をしっかり伝えることが大事だったなと思います。

番組に登場した女子高生や中学生たちは、その後もハンセン病を学ぶ活動を続けています。

元患者さんたちの残された時間も限られる中継続して取材し番組に反映したいと思います。と回答がありました。